

「地域別実行計画」策定に向けた
地域との協働による取り組み
～西蒲区 潟東地区～

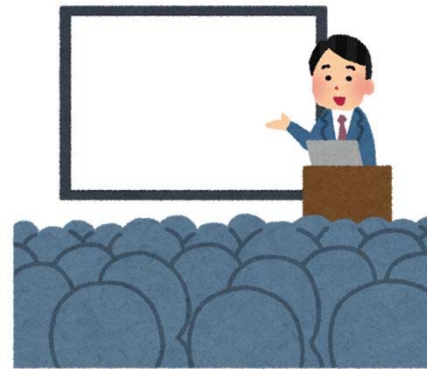
平成28年9月5日

新潟市 財務部 財産活用担当部長

パブリック・インボルブメント (PI)

◆従来の方法 (市民参加)

- 情報公開
- 市民の意見聴取



◆PI手法 (市民参画)

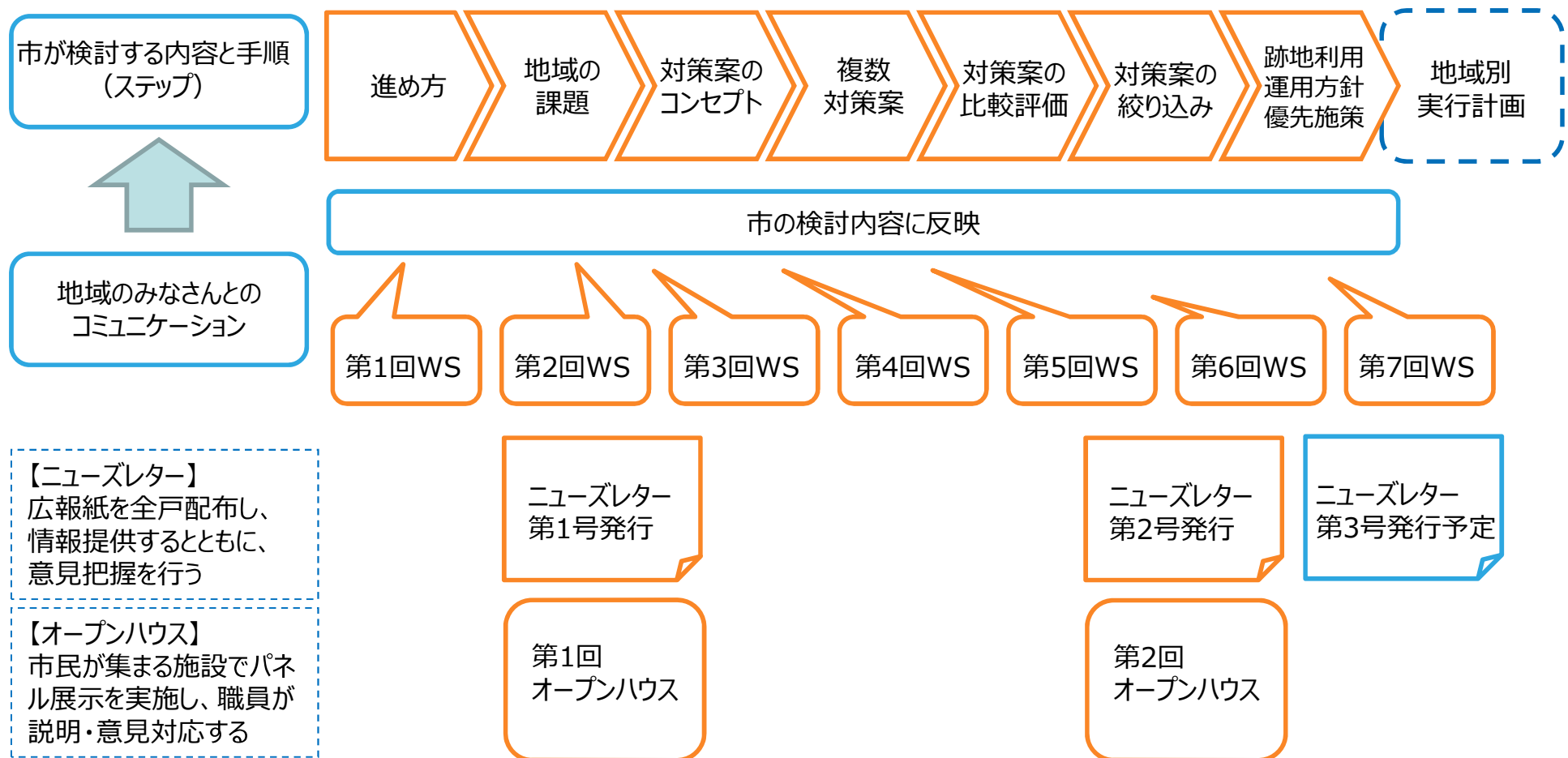
- 意見交換
- 合意形成

多様な市民意見を反映し、
政策の計画立案を行う



地域別実行計画策定のプロセス（潟東の事例）

各ステップに合わせ、ワークショップ（WS）などコミュニケーションの場を設け、そこで得られた意見をふまえ検討



ワークショップ以外のコミュニケーション



オープンハウス(パネル展示)
職員が待機し、情報提供・意見聴取

ニュースレター(広報紙)
全戸配布により情報提供

<発行者> 地域別実行計画コミュニケーション事務局 新潟市財務部財産活用課 平成27年7月発行

新潟市 財産経営 推進計画 NEWS

ニュースレター #1 地域の公共施設のこれからを考えるワークショップが開催!

新潟市では、平成27年7月に、「財産経営推進計画」が策定された。この計画は、都市型定住社会や厳しい財政状況を強いことのないよう、市有財産の効率的な管理・利活用を図っている。

この計画では、今後、地域の身近な公共施設については、地域のあり方について検討することと定められている。

新潟中学校区では、小学校統合が予定されていることから、ご意見とともに、小学校跡地の活用などについて、地域のみなさんのワークショップが開催されています。

<発行者> 地域別実行計画コミュニケーション事務局 (新潟市財務部財産活用課) 平成28年6月発行

新潟市 財産経営 推進計画 NEWS

ニュースレター 第2号 潟東地域の公共施設のこれから

「地域の公共施設のこれから」を考えるワークショップも、いよいよ大詰めを迎えています。

地域のみなさんのご意見をもとに、市で「地域別実行計画」が策定されますので、オープンハウス(説明員付きパネル展示)や、ニュースレター(広報紙)などをご覧いただき、地域のみなさんのご意見をお寄せください!

第6回ワークショップの様子

公共施設のあり方について、様々な可能性を検討しています

潟東中学校区では、小学校統合を契機として、地域の公共施設のあり方や、小学校跡地の活用などについて、地域のみなさんと市・区役所がともに考えるワークショップ(WS)が、昨年8月から開催されています。

これまで、様々な案を検討しましたが、今後は、それらの案を比較評価しながら絞り込み、地域の公共施設の将来のあり方を示す「地域別実行計画」の策定に結びつけます。

検討のステップ

進め方
地域の課題

対策案の
コンセプト

複数
対策案

対策案の
比較評価

対策案の
絞り込み

跡地利用
運用方針
優先施策

潟東地区
地域別
実行計画

第3回WS (11月開催)
地域の課題を明らかにし、課題を解決するための方向性について議論されました。

第4回WS (1月開催)
課題解決のための考え方や方策を整理し、公共施設の将来のあり方(対策案)のコンセプトが立案されました。

第5回WS (3月開催)
コンセプトに沿って、複数の対策案が立案されました。

第6回WS (5月開催)
複数の対策案(修正案)について、7つのポイントに照らした比較評価を行いました。

これまで6回のWSが開催され、延べ122人の方が参加しました!

第1回 潟東ゆう学館で、地域のみなさんとオープンハウスのご意見を伺いました。

第1回 広報紙による情報提供をニュースレターに行いました。

ワークショップをはじめ、オープンハウスやニュースレターなどにより、地域のみなさんから様々なご意見を伺っています。それらのご意見をふまえて、市で「地域別実行計画」を策定していきます。

課題解決の狙いとなる「7つのポイント」を整理しました

第3、4回ワークショップでの議論および第1回オープンハウスでの意見をふまえて、地域の公共施設について、望ましい将来の姿(課題解決の狙いとなる「7つのポイント」)を整理しました。

第5、6回ワークショップでは、これらのポイント達成するための6つの対策案[※]について議論しました。

① 過度な財政負担が将来世代に残らない。

② 地域に必要な機能を維持・改善する。(高齢者、子育て、防災など)

③ 地域のみなさんにとって、中心性を保つ。

④ 地域が活性化する。(魅力が増す、雇用を生み、人々を増やすなど)

⑤ 地域間や世代間で負担の公平性がとれる。

⑥ 施設が有効に利用され、安全で地域のためになる。

⑦ アクセシビリティが高く、気軽に使える。

※6つの対策案の詳細は、次のページにあります!

潟東中学校区 ワークショップ

昨年8月から今年7月まで、全7回のワークショップを開催。
ワークショップでの議論のほか、ニューズレター(広報紙)やオープン
ハウス(パネル展示型説明会)での意見をふまえ、地域別実行計画
を策定予定。

回	開催日	主なテーマ	人数
1	H27.8.30(日)	・WS進め方、情報共有、課題は何か	29
2	H27.10.10(土)	・地域別検討資料提示、課題解決の方策	16
3	H27.11.21(土)	・課題解決のための具体策について	19
4	H28.1.24(日)	・具体策アイデアまとめとコンセプト(計画案)	18
5	H28.3.27(日)	・計画案(ABC案)の提示と評価軸づくり	18
6	H28.5.22(日)	・修正した計画案の提示とその評価	22
7	H28.7.31(日)	・案の絞り込みと附帯事項の整理	17
	H28.9予定	計画(案)の報告会を予定	--



地域別実行計画策定までのスケジュール

～H28

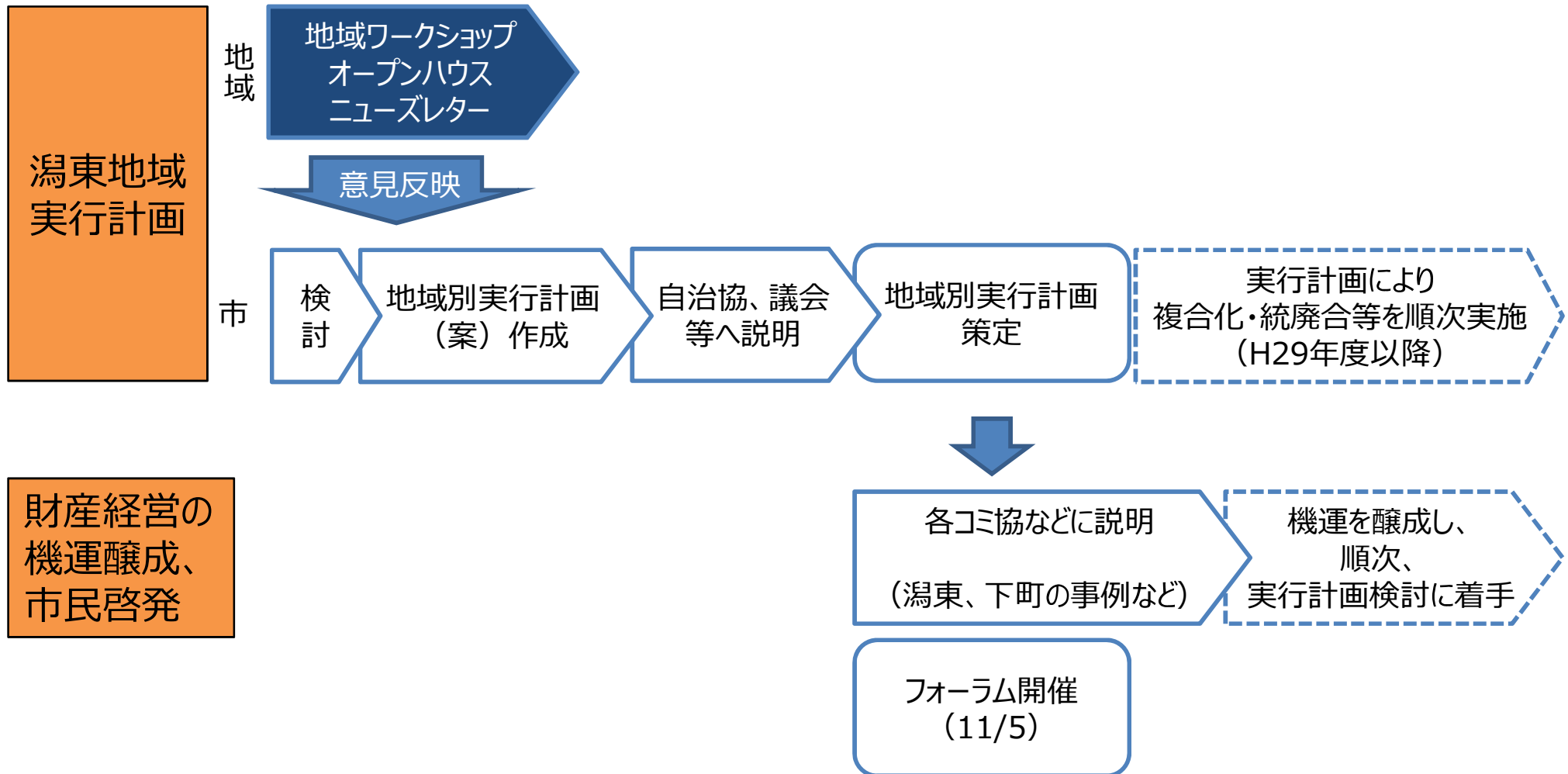
7月

8月

9月

10月

11月～



従来の決め方

◆庁内調整

- 予め最も適切と考える答えを作る
- 行政内で腹決め
- 予定の公表
- 批判に対する自己弁護



◆公共政策、公共事業を発表

- 皆のために必要なこと
- 世論も賛成が多い
- …だから実施すべき
- 総論賛成・各論反対⇒市民のエゴ
- 権力、権限にもとづく決定
- 強い政治が大事、強行すべき



**保身的な意思決定プロセス
反発(典型的な市民の反応)を誘う**

典型的な市民の反応

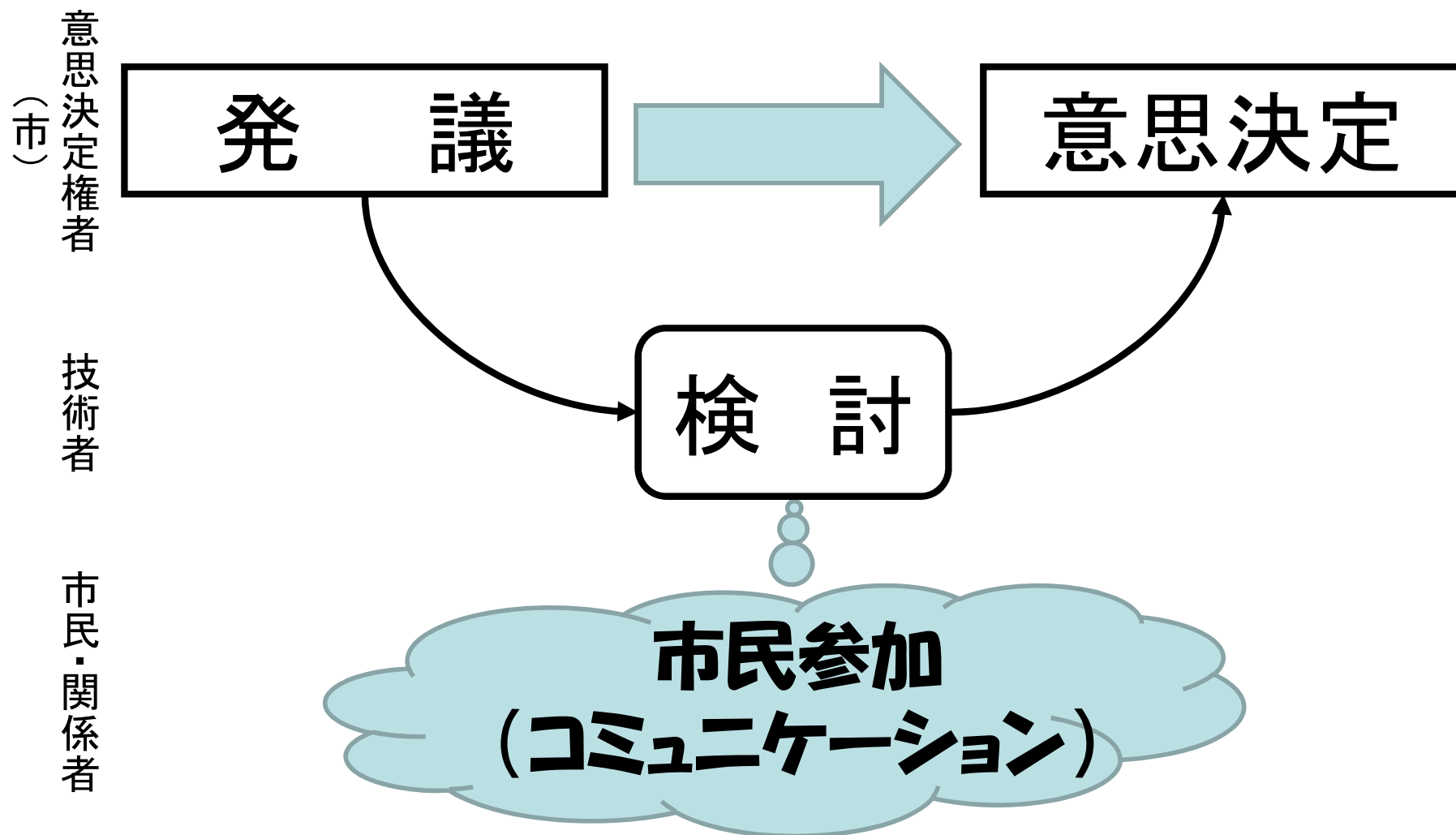
- 総論賛成・各論反対
「趣旨は分かるがウチではやめてくれ」
- 公平性
「なぜウチなんだ、隣町でもいいじゃないか」
- 公正性
「一方的だ、勝手に決めるな、公権乱用だ」
- 不信感
「怪しい、信用できない、利権の匂いがする」
- 合理性
「金が足りないなら役人を減らすのが先だ」



新しい進め方

- 策定する計画内容の事前明示
- 計画策定プロセスと策定期間の事前調整
- ステップを重ねながら進める段階的プロセス
- 目的や課題の事前調整
- 多様な可能性の予断なき検討
- 比較衡量に基づく案の選択
- ステップごとの連続的な対話
- 幅広い対象者との対話と協働
- 積極的で遅延なき情報の開示

社会意思決定と市民参加



もっと市民に役割を

情報提供

情報を市民に付与

協議

情報を市民に提供し、市民の反応を得た後、それを分析し、意思決定に活かす

関与

プロセスを通じて市民に働きかけ、一貫した理解と配慮を担保する

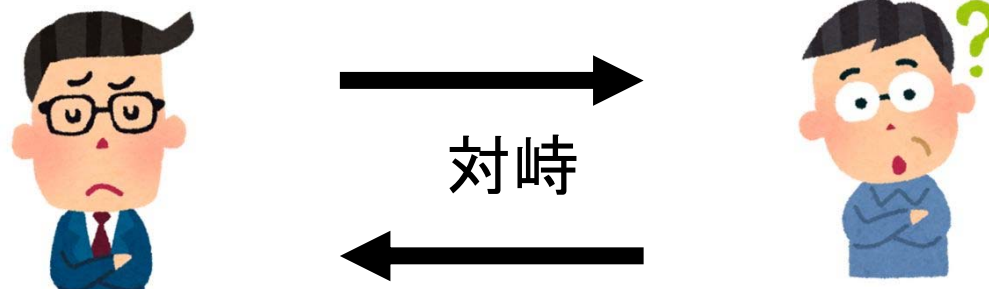
協働

計画立案から意思決定までの過程に、市民がパートナーとして関わる

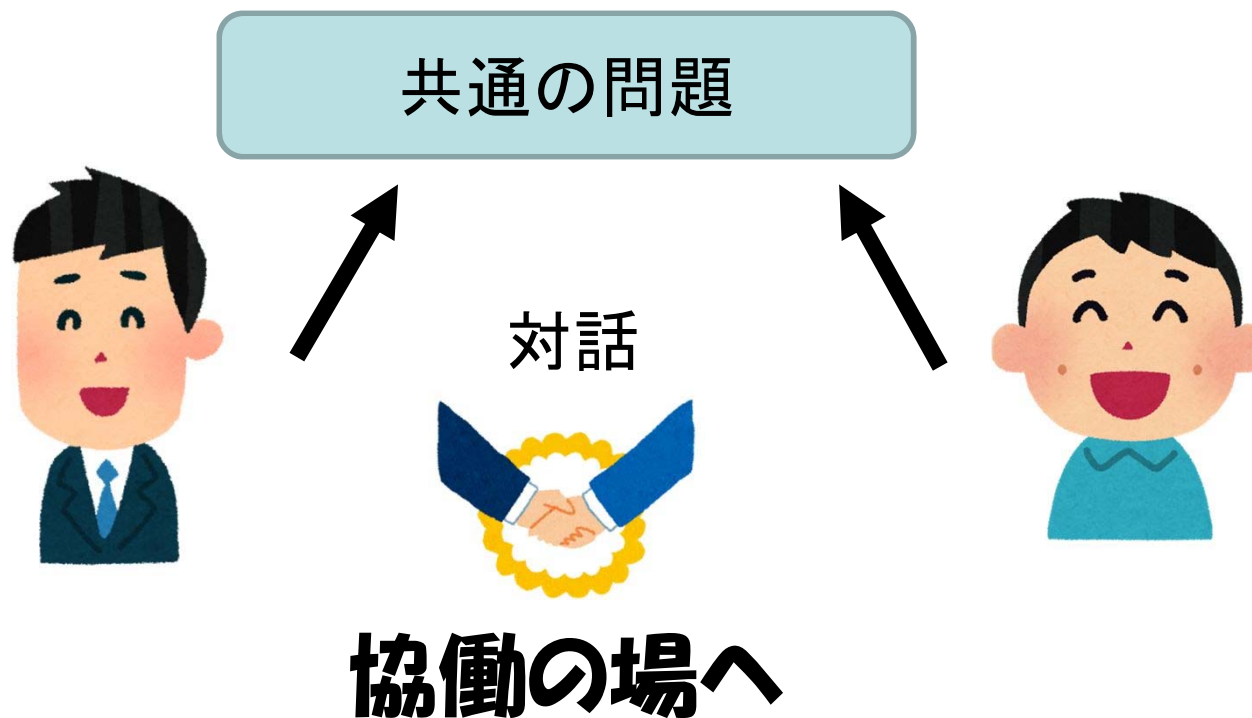
小 ← 市民の役割 → 大

対峙の構図から協働の場へ

従来



これから



ワークショップ参加者のふりかえり

最初の頃

- 市としての着地点は決まっており、住民意見を聞いたというアリバイ作りのための場では。
 - 農村部のコストが高いのなら、中心部で儲けてその分を充ててくれればよいのでは。
 - たとえ維持・管理で税金が上がるとしても、見直しはせずに現状のまま維持すれば良いのでは。
 - 市街化調整区域の規制を緩和して、住宅などを建てられるようにしてほしい。
 - 潟東地区では小学校の統廃合などにより不便になって負担を強いられているのだから、その分、教育面の充実を期待しても良いのでは。過度な財政負担が生じるとは思わない。
-

ワークショップ参加者のふりかえり

終盤の頃

- 民間活用せざるをえない状況だと思うので、市の直営による施設運営は現実的ではないと思う。
 - 公共施設再編については、地域の関心が低いので、ワークショップや広報誌以外にも、関心を高めるための様々な工夫が必要ではないか。
 - 参加者同士で忌憚なく意見を出し合うことができ、事務局も真摯に聞いてくれたことで、回を重ねることに内容が具体化してきたと思う。
 - 今まで積み重ねた意見や要望については、今後十分検討し、何年後かに振り返って、あの時のワークショップは本当に良かったと言える様な結果を望む。
 - 大変だと思うが、こういう機会をつくってもらいたいと思う。
-

課題解決の狙いとなる「7つのポイント」

- ①過度な財政負担が将来世代に残らない
- ②地域に必要な機能を維持・改善する(高齢者、子育て、防災など)
- ③地域のまとまりや中心性を保つ
- ④地域が活性化する(魅力が増す、雇用を生む、人口を増やすなど)
- ⑤地域間や世代間で負担の公平性やバランスがとれる
- ⑥施設が有効に利用され、安全で地域のためになる
- ⑦アクセスしやすく、気軽に使える

※ポイントは、地域の課題や望ましい将来像によって設定されるため、地域によって内容が異なります

対策案の評価(潟東の事例)

7つのポイント	A案	B案	C案	D案	E案	F案	B+F案
①過度な財政負担が将来世代に残らない	◎ ・最も低コスト	○ ・D案より低	○ ・D案より低		○ ・D案より低	○ ・D案より低	△ D案より高
②地域に必要な機能を維持・改善する	○ ・学校との連携による施設活用が期待 ・体育館の利用時間制限	◎ ・イベントも含め使い勝手向上 ・体育館の避難所機能充実	◎ ・サルビアとの連携によるスポーツ拠点機能向上 ・体育館の機能低下		△ ・大幅な機能縮小	○ ・機能は分散化され維持 ・類似用途施設は近接し使い勝手向上	○ ・機能は分散化され維持 ・イベント時の使い勝手向上
③地域のまとまりや中心性を保つ	○ ・近接するものの中心の二極化が懸念	◎ ・中心性維持、向上 ・イベント時使い勝手向上	△ ・中心の二極化が懸念		△ ・中心性、拠点性の低下が懸念	△ ・中心部の衰退が懸念	△ ・中心性、拠点性の低下が懸念
④地域が活性化する	○ ・学校とコミュニティとの連携による活性化が期待 ・中心部の活力低下の恐れ	◎ ・中心性、拠点性が一層増す ・地域に新たな財源	○ ・旧西小とサルビアパークとの連携による活性化が期待 ・中心部の活力低下の恐れ	現状(比較の基準)	△ ・機能縮小に伴い衰退の可能性	○ ・旧西小とサルビアパークとの連携による活性化が期待 ・中心部の衰退が顕著となる可能性	◎ ・旧西小とサルビアパークとの連携による活性化が期待
⑤地域間や世代間で負担の公平性やバランスが取れる	○ ・将来世代の負担減 ・体育館の利用時間制限	◎ ・将来世代の負担減 ・コミセン化による利用料金設定に裁量	○ ・将来世代の負担減 ・体育館の機能低下		△ ・将来世代の負担減 ・魅力ある地域を継承できない	○ ・将来世代の負担減 ・体育館の機能低下	△ ・将来世代の負担増 ・コミセン化による利用料金設定に裁量
⑥施設が有効に利用され、安全で地域のためになる	○ ・学校との複合化によりスペースの効率化、有効活用 ・安全面への配慮が課題	◎ ・体育館とコミュニティの一体化による利便性向上 ・イベント時使い勝手向上	○ ・旧西小は中心から離れており利用率向上には工夫必要 ・サルビアパークとの連携による活性化が期待		○ ・機能縮小により無駄が省かれる	○ ・小学校跡地活用が図られる ・C案と同じ	○ ・類似の施設が複数でき、利用率低下が懸念 ・サルビアパークとの連携による活性化が期待
⑦アクセスしやすく、気軽に使える	○ ・アクセス性若干向上 ・新設小の駐車場台数は制約の可能性	◎ ・アクセス性若干向上 ・体育館の駐車可能台数増加	△ ・アクセス性低下		△ ・アクセス性低下	△ ・アクセス性低下	○ ・アクセス性若干低下 ・体育館の駐車可能台数増加

PIの効果・目的・ねらい

- 透明性
- 正しい情報を伝えた上での合意
- 説明責任
- ニーズ対応／計画の質的向上
- 紛争リスクの軽減
- 計画の社会的信任
- 当事者意識

合意形成プロセスに関する技術研修



(研修後のアンケートから抜粋)

- 交渉ゲームなどこれまでの研修ではあまり体験しなかった演習だったため、楽しく学ぶことができた。
- 「聴く技術、再構築」の部分は市民ワークショップだけでなく、日常の業務においても実践できる内容で、とてもためになった。
- 本研修内容が、仕事の進め方のスタンダードになるよう職員研修等で多くの職員に受講機会があると良いと思う。